

主に指導する教科・領域 数 学

| 実 態  | 目 標  |                   |
|--|--|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲は高いが、理解は十分ではない。</li> <li>・計算の習熟は小学校2年程度。ドリル的な学習はできるが、文章から読み取って、立式したり生活場面で生かしたりすることが難しい。</li> <li>・図形に関しては、基本図形の名称などは言えるが、それをかき写したり、作図したりすることはうまくできない。線の長さが変わってしまったり、角度が変わってしまったりする。</li> </ul> | 長 期  | 図形を正確にとらえることができる。 |
|  | 短 期  | 図形を正確にかき写すことができる。 |
|  | 手 だ て  |                   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の興味がある怪獣を教材とし、学習意欲を高める。</li> <li>・方眼紙を使用し、ますの数を活用しながら作図させる。</li> </ul> |                   |

< 実 践 事 例 > 単元「オリジナル怪獣を作ろう」(生徒H)

★ 方眼を印刷した色画用紙を四角形や三角形に切り取り、オリジナルの怪獣の絵を完成させる学習課題

① 教師の作成した大好きな怪獣の絵を見て、Hは興奮していた。

② 怪獣を各部位(多角形)に分解し、形の種類別に分類した。多角形の名称を理解しているので、意欲的に取り組んだ。

③ 正方形や平行四辺形、台形などの基本図形を方眼紙にかき写す練習をした。

④ 方眼のますを上手に使うことができず、長さや角度がずれてしまうことが多かった。斜めの線は、縦と横のますの数を数えて線を引くとよいことを伝え、少しずつうまくかけるようになった。



<作図の見本となる怪獣の図>

⑤ 怪獣の見本を参考に、自分の画用紙にオリジナルの怪獣のデザインをかき写した。前時までの基本図形の学習の経験を生かし、ますの数を数えながら作図を進めることができた。

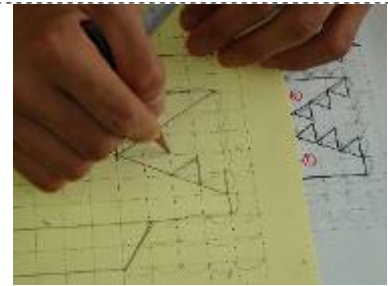
⑥ 同じ要領で、黄色と緑色の色画用紙にも同じオリジナルの怪獣のデザインを写し、各部位の作図をした。



<オリジナルの怪獣のデザインをかき写す>

⑦ 色画用紙にかき写した各部位を、はさみを使って切り取り、画用紙にはり付けた。

- ⑧ 部位を一つずつ切り取り，台紙の画用紙にはろうとしたが，はる場所を見付けたり，向きをそろえたりするのに苦労していた。台紙の画用紙のデザインに各部位の形を赤色でかき込むと，合わせやすくなった。
- ⑨ 切り取った各部位をすべてはり付け，オリジナルの怪獣を完成させることができた。



<色画用紙にかき写す>

| 評 価   | 今後の課題  |
|---|--|
| <p>方眼を利用しても，図形を正確に描写するのは容易ではないようであった。しかし，方眼のます目を利用する方法を練習したり，補助となる図形をかき込んだりすることで，少しずつ正確にかくことができるようになってきた。</p> <p>この学習の後，作図の場面で今回の経験を生かし，作図に取り組む様子が見られた。</p> | <p>方眼を利用しての作図は少しずつできるようになってきたが，実際の生活では，方眼を意識することは少ない。今後は，方眼のイメージを頭に描きながら，長さや角度などを利用して作図できるようにしていきたい。</p> |